

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点

2020年度 公募研究対象資料リスト

1. 坂川屋旧蔵常磐津節正本版木

旧蔵者の坂川屋は、1860年に版株を常磐津正本版元の伊賀屋から受け継いで再刊などを行った版元である。この坂川屋の常磐津節の稽古本の版木、1000点以上の資料群である。



2. 松田青風関連資料

鑄木清方門下の松田青風（1892～1941）が残したスケッチブック。青風が1914年頃から舞台上で使用される鬘を丁寧に写生し続けたもの。数百種にも及ぶ歌舞伎の鬘は役者の好みも反映した興味深い演劇資料であり、類例をみない存在であえる。併せて芝居スケッチを含む。画像数約6170。



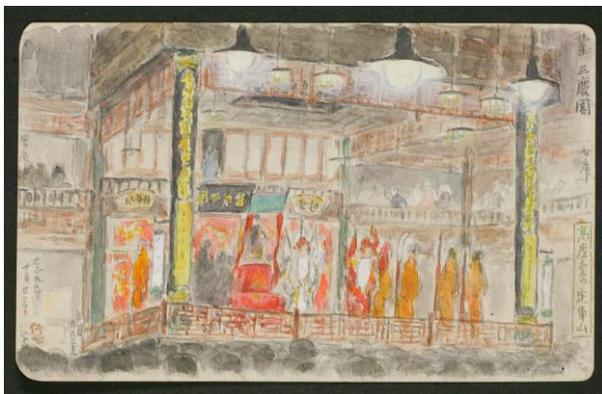
3. 小林雍夫舞台装置図

舞台美術家小林雍夫による舞台装置図約2200件。1959年から担当した日劇、ミュージックホール、新宿コマ劇場、御園座等の舞台美術資料。



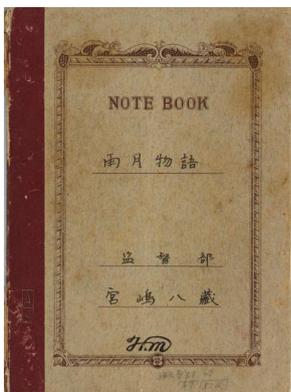
#### 4. 戦前中国演劇関連資料：福地信世資料

地質学者・舞踊作者の福地信世（1877～1934）による写真の残されていない中国の劇場風景や俳優の似顔絵を描いたスケッチ集 173 枚 4 冊。当時の白黒写真では確認できない色彩をもった記録としても貴重。



#### 5. 宮嶋八蔵旧蔵資料

宮嶋八蔵が助監督として携わった映画作品から企画に関わった溝口健二作品をはじめとする民間企業のコマーシャル映像まで台本、制作ノート、企画書等のデジタル化した資料 71 点。制作ノートや台本には数多くの書き込みがあり、製作過程で段階的に起きた取捨選択を窺い知ることができる。



#### 6. 淡島千景写真アルバム資料

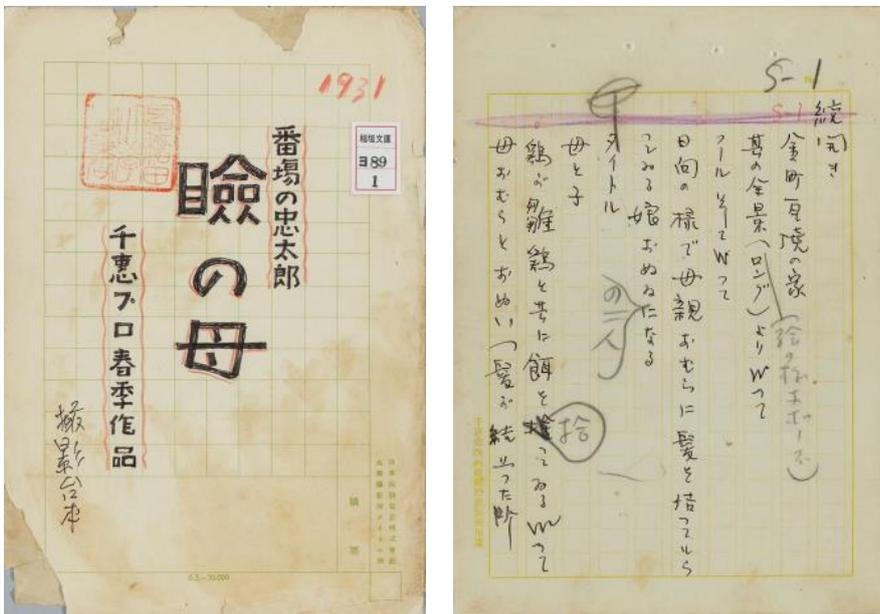
淡島千景（1924～2012）の幼少期を含むプライベート写真、宝塚歌劇団への入団当時の写真、松竹入社以降の映画・テレビドラマ・舞台出演作に関する写真を含む 29 冊の写真アルバム。宣材写真や

映画スチルを多く含むが、宝塚歌劇団時代のものには被写体の名前が詳述されている。



## 7. 稲垣浩旧蔵映画台本

映画監督・稲垣浩（1905～80）旧蔵の台本、コンテ、撮影記録等。『瞼の母』等のサイレント映画から『私の青空』等の初期のトーキー作品、『無法松の一生』等の代表作を中心にデジタル化した。



## 8. 小林悟資料

製作段階でのメモ帳 6冊やノート 8冊、撮影・アフレコのスケジュール表全 15枚、書簡 6点。主には男女ものの成人映画だが、一部に薔薇族映画の構想に関連する記述が確認できる。ノートには出演者に対する給与の記述もあり。